



映像配信

第2回シンポジウム



令和時代の避難を考える～昭和・平成の災害を越えて

令和防災研究所は、令和元年5月に設立しました。近年の人口減少や地球温暖化の影響による気象現象の激化を考慮すると、今後は従来の防災の考え方が必ずしも当てはまらない社会になると考えられます。令和元年は、度重なる長雨・豪雨や大型台風が発生し、首都圏の都市機能や人々の生活が混乱し、翻弄されました。災害が多様化し激化する令和の時代は、防災ストラテジー（戦略）の更新が急務と考えられます。

当研究所では、設立初年度にあたり、「避難行動に関する研究」を行いました。地震や津波など自然災害からの緊急避難について、昭和から令和元年までの学術上の議論の変遷と知見を整理したのち、近年の避難を取り巻く状況を分析した上で、令和の時代に必要な避難行動や政策、法制度のあり方を議論しています。

本シンポジウムでは、その研究成果を発表し、研究所員による議論を通じて、防災士や市民をはじめ、防災に係る多くの方々が、避難行動を考える上で参考となる知見や情報を提供します。ぜひご参加下さい。

【日 時】令和2年9月22日（火・祝）14時～16時30分

【参加方法】映像配信：令和防災研究所ホームページにてシンポジウム当日配信 *要事前申込

【申込方法】映像配信希望の場合、令和防災研究所HPの<https://reiwabousai.info/>の申し込みフォームから登録してください

【主 催】令和防災研究所 【共 催】日本防災士機構 【参加費】無料（要事前申込）

○映像配信の場合、会場で配布される予稿集や資料、発表中に投映されるスライド等のデータ配信はございません。予めご了承ください。

【プログラム】

14:00 開会（第1部）基調講演・発表

基調講演 廣井 悠（東京大学大学院工学系研究科准教授）「令和元年東日本台風における避難情報の特徴」

発 表 加藤孝明（東京大学生産技術研究所教授）「避難十避難十避難について思うこと」

早坂義弘（東京都議会議員）「いつ・どこへ・どうやって」

橋本 茂（日本防災士機構事務総長）「感染症拡大期における防災士の活動について」

中林啓修（国土舘大学防災・救急救助総合研究所准教授）「ポスト避難の重要性」

成澤廣修（東京都文京区長）「新時代に求められる避難所の3密回避」

玉田太郎（防災士研修センター代表取締役）「避難所の停電時に備える事前対策」

河上牧子（令和防災研究所事務局長・主任研究員）「マンション防災のトレンド～風水害対策」

青山 侑（令和防災研究所長）「避難行動と住民・行政・メディアそしてインフラ整備の課題」

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター 青山 侑

パネリスト 廣井 悠、加藤孝明、早坂義弘、橋本 茂、中林啓修、成澤廣修、玉田太郎

16:30 閉会